



とうとう最後の「HONTO」になりました。今年度は13号から始めて、区切りのいい50号でお別れです。本を読むことは大事、と誰もが言いますが、本当にそう思っているかは分かりません。経験していないことには、人間は一般常識で応答するからです。それが世渡りというもので、これはこれで大事な生きていく知恵なのです。

読書について

学校司書 大藤佐和

今年は全員の先生方に「HONTO」を書いていただいた。全員の原稿を読み、レイアウトし、画像を貼り付け、中央のキャッチコピーをつけ、導入文を考えるのは、普段の図書館業務ではできない貴重な体験であった。「HONTO」を冊子にまとめることが決まり、校内読書旬間中に全員分を発行できるよう発行の頻度を毎日にしたため、途中からは半ばやけっぱちのように文章をひねり出していたが、それでも編集作業は楽しいものだった。先生方それぞれの文体も個性があり、その人らしい雰囲気にあふれている。全員分に目を通して、そのことをつくづく実感した。先生方のエッセイを読んで思い浮かんだことを文章にし、本文につなげていく作業は、ゼロから何かを生み出しておらず、産みの苦しみは味わわずに済んだ。先生方にとっては、好き勝手に書かれて自分の考えとは違う話になって困惑された方もいらっしゃるだろう。この場を借りてお詫び申し上げます。もう二度としません。

学生の読書離れが言われて久しいが、学生だけでなく、大人の読書離れもかなりの割合で進んでいる。子どもの時に読まなかった世代が大人になってきているためだ。私自身は幼少の頃から本が周りにあり、読まない生活は考えられない。そのため、目の前の人の本を読んだ経験が少ない、ということに思い至らないことがある。逆に、小中学生の時はテレビの視聴が親に制限されていたために、同時代の誰もが見ていたと言われる「8時だヨ！全員集合」や「オレたちひょうきん族」をリアルタイムで知らない。一世を風靡した「東京ラブストーリー」も「ザ・ベストテン」もだ。子ども時代に見たテレビ番組の話題になると、全くついていけずその場はニッコリ笑ってやり過ごす。私のことをもう少し知っている人ならば、「佐和は見てなかったもん」と断りを入れる。でも、若い時に本を読んでいないからといって話題に入れないことはない。日常生活に直ちに支障も出ないし、今まで生きてきた中で困った事態に陥ったこともないだろう。だから、本を読む必要性を切実に感じることはなかなか無い。周りにそんな大人ばかりだったなら、その子どもも読書が大事だとは考えない。それは当たり前で、周りがしていないことを突然始める子どもは、よっぽどの物好きとして認識されるからだ。身近に本が無く、読書をする大人も見ずに育つ。本を読め本を読め、と言われるが、

自分の未来のために『HONTO』大藤佐和

目の前のことにかかずらっているうちに時は過ぎ、大人になって若いうちにもっと読んでおけばよかったと後悔する。読書がなぜ大事か、明確に言葉にすることは難しい。読解力がつく、というのも受験勉強の一環のようでなんだか違う。知りたいことを調べるだけが読書でもない。本を読んで直ちに役に立つことはあまりない。読書をしなければ、読書の大切さは分からない。皆が言うから、なんとなく大事そうだと思うけれども、本当にそうだと身をもって感じなければ分からない。

■ 入試を経た公立高生でも3割しか読めていない...

【問い】 アミラーゼという酵素はグルコースがつながってできたデンプンを分解するが、同じグルコースからできていても、形が違うセルロースは分解できない。
セルロースは()と形が違う。

	公立中	公立高
A デンプン	9%	33%
B アミラーゼ	29%	57%
C グルコース	53%	8%
D 酵素	9%	2%

出典:東京書籍・高校生物基礎教科書「新編・生物基礎」

■ 文頭の言葉を選ぶのはコンピューターと似ている?

【問い】 仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。
オセアニアに広がっているのは()である。

	公立中	公立高
A ヒンドゥー教	0%	0%
B キリスト教	53%	81%
C イスラム教	12%	0%
D 仏教	35%	19%

出典:東京書籍・中学校社会教科書「新しい社会地理」

5月の読売新聞に、国立情報学研究所の新井紀子教授がインタビューに答えている。彼女は「東ロボくん」プロジェクトを進めているとき、今の中高生の読解力の低さに気づき、簡単な読解力テストを行ったところ、読めていない生徒が大勢いたことに衝撃を受けた。さらに大規模な調査を行い、11月にその結果についても報告している。

読売新聞 2016年5月25日

人工知能に多くの職業が取って代わられる時代に、機械的に答えられる課題ばかりできるようになっても、仕事を機械に奪われるばかりである。職種の大転換に対応できない人間が大多数になった場合、世の中はどうなるのか、非常に危惧している、とのことだ。

本を一冊読み通す、ということは読解力をつけるだけではない。読書は個人的な作業であり、内省を促す。それを他人に言わなくてもいい。現実には誰ともつながっていないが、本の著者と交流している。誰かと必ずしもつながらなくてもいい、と気づくのだ。友だちが大勢いないからと言って不安になる必要はない。自分を見つめる時間をもつことは重要で、読書はその作業に最適だと私は考える。自分なりの考える方法を身につける最適行為だ。若いうちに読書の習慣をつけることは、これからの激動の時代を生き抜くための手段を手に入れることであり、そのためには何の本でもいい、その世界を楽しみ、続けていけるよう無理せず、自分の読める本から始めて、だんだん様々なジャンルに手を伸ばしてほしい。

先生方が「HONTO」で紹介してくださった数々の本の中に、きっと自分に合った本があるはずだ。身近な人間が紹介してくれた本は、それだけで特別な本になる。今まで読んでこなかった人にも、もう遅いということはない。一生のうちに必ず自分のために書かれた、と思える本に出合えるはずだ。それが若いうちに訪れれば、なお素晴らしい。そのためにも出合う機会をゼロにしておくのではなく、数々の本に触れてその運命の出合いを逃さないでほしい。